



福山市立有磨小学校 4年学年通信 2025年(令和7年) 11.6 NO.14

社会見学を終えてパートⅠ

広島に着いて、まず平和記念資料館で、被爆伝承者のまりちゃん(東野真理子さん)の話を聞きました。まりちゃんのお母さんのちいちゃん(竹岡智佐子さん)は、友だちと海に遊びに行く朝、被爆されました。気が付いたら、近くの畑に飛ばされていました。その後、ちいちゃんは、何日もお母さんを探し続け、ちいちゃんはやっとお母さんを見つけることができました。その後、ちいちゃんは、結婚して赤ちゃんを産みましたが、18日後、原爆病でなくなってしまいました。そして、1953年、まりちゃんを生みました。ちいちゃんは、被爆体験を多くの人に話し、原爆を落としたアメリカにも行って被爆体験を話されました。ちいちゃんは、「みんなで平和をつくりましょう。」と残し、2020年92歳でその生涯を終えられました。そんなちいちゃんの思いをまりちゃんが引継ぎ、被爆体験を伝承して、平和をつくる取り組みをされています。まりちゃんは、話の最後に「一人一人が平和の種をまくことが大切」だといわれました。

まりちゃんの話を聞いて、こどもたちは原爆や平和に対するいろいろな思いを持ちました。

- 一発の原爆で、そこにいた人々のいつもの生活がなくなってしまったんだと思いました。
- 一発の原子爆弾で、多くの人がなくなっていることを知りました。ちいちゃんのお母さんのように、目がとびだした人、ひどくやけどをした人がいて、人間ではないようでした。ちいちゃんがお母さんを探して見つかったとき、ちいちゃんはひどく悲しんだろうなと思いました。
- たった一つの原子爆弾で、何十万という人の命がうばわれたので、原爆であったことを周りの人に伝えていこう。
- 1945年8月15日、やっと終戦で、町の人はうれしさとともにすごく安心したと思いました。これからもずっと平和であってほしいと思いました。
- 平和は、遠くにあるものではなくて、私たち一人一人がつくっていくものだと知って、もっと平和について知りたいと思った。

こどもたちの心の中には、まりちゃんから聞いたことやまりちゃんの思いや願いがしっかりと伝わっているように思いました。これからこどもたちが「平和の種」を育てていってほしいと思いました。

